昭和五十二年十二月三日第三種郵便物認可　毎月十八回一・二・三・五・六・七・の日発行
令和三年八月十五日発行　SSKP　通巻第7717号

SSKP 脊損ニュース 8月号

〒152－0034
東京都目黒区
緑が丘２－15－14
村上ビル102
(公社)全国脊髄損傷者連合会
電話(03)6421-4588

(公社)全国脊髄損傷者連合会
ホームページアドレス ＝https://www.zensekiren.jp/

▲トムラウシ温泉 東大雪荘

〒081-0154
北海道上川郡新得町屈足トムラウシ
ＴＥＬ０１５６－６５－３０２１
ＦＡＸ０１５６－６５－３０２２

https://www.tomuraushionsen.com/

車いす対応　電動ベッド部屋　１室
10畳和室　２名～
１泊２食付　１名につき￥１１，１５０～

※曜日、季節、天候によって変わります。
その他、お問い合わせください。
（情報提供　編集部）

〈８月号目次〉

公開講演Ⅰ解体新書2020
全国頸髄損傷者連絡会　その１ …… 3
新旧交代　新任理事よろしく …… 7
褥瘡入院騒動記　その１
小林光雄 …… 8
減災《減災意識をたかめる》 …… 10
学校内のバリアフリー化
てるてる坊主 …… 15
連載　世界は開いているから仕方がない
村山哲也 …… 16
連載　絵本にかける想い
渋谷真子 …… 17
万華鏡27・災害支援金のお願い …… 18
組織部報告・編集後記 …… 19

1977.12.3 第3種郵便物認可
(発行日)2021.8.15 SSKP 通巻第7717号

快適床ずれ予防マット

業界で唯一
シリコンファイバーを使用

ソフタッチユーホー

ソフタッチユーホーベッドマット

汗をかいてもムレずに寝心地抜群！

◆ 高い吸汗性と通気性で寝心地は常にさらさら！
◆ 安眠布団としても最適！

※『労働災害補償保険』対象商品です。
詳しくはお問い合わせください。

シングル
74,800円(税込)

【サイズ】長×幅×厚(cm)：210×90×10
【材 質】中綿：シリコンファイバー 100%
側地：表面 綿35%・ポリエステル65%(抗菌加工) / 裏面 ナイロン 100%

ソフタッチユーホー車椅子パッド

長時間座ってもムレを防いで座り心地最高！

◆ 暑さがつらい外出時でも汗をすばやく吸収するため快適！

レギュラー・ハード
15,400円(税込)

【サイズ】長×幅×厚(cm)：レギュラータイプ(41×46×8) ハードタイプ(39×39×8)
※「車椅子パッド」は座布団、背あて、腰あてとしてもお使いになれます。
※ 運動選手の方など、80kg以上の方用にハードタイプもご用意しております。

アームチェアパッド
31,900円(税込)

2個1組セット

かかとパッド
11,000円(税込)

シリコンファイバーとは

床ずれ予防用具として最適な素材!!
高い通気性で汗をかいてもムレずに快適!!

「シリコンファイバー」の特長

- NASAでロケット発射時の暖衝材として開発
- 体圧分散効果と通気性に優れ、床ずれ予防に最適
- 繊維間の摩擦が非常に少なく、適度な弾力性

床ずれ対策に併せてオススメ!!

肌改善サプリメント **シスコラも販売中！**
6箱セット以上のご注文の場合は、送料無料でお得!!
更にお得 6箱セット▶5%OFF! 12箱セット▶15%OFF!!

メーカー販売価格 4,104円(税込)

商品のお申し込み・お問い合わせはこちらまでご連絡ください。(WEBサイト・メールでも受付可能)

☎ **03-3377-2361**

日本ヘルスケア株式会社
〒151-0073 東京都渋谷区笹塚2-21-12

WEBサイト https://www.jhckk.co.jp　MAIL jhc@jhckk.co.jp　FAX 03-3377-2214　営業時間 月曜～金曜 9:00～17:30

●公開講演Ⅰ

頸損解体新書2020

自分らしくあるために

全国頸髄損傷者連絡会

その1　（文責　広報部）

あいさつ

全国頸髄損傷者連絡会
会長　　鴨治　慎吾氏

コロナ禍にあり報告する機会をいただけたこと、実行委員会の皆様に感謝申し上げます。

今まで全国頸髄損傷者連絡会では「頸損解体新書」「頸損解体新書2010」を調査し、冊子にまとめて発刊してまいりました。前回の調査から約10年たち、制度や医療、頸髄損傷者に関わる環境の変化、改めて調査の必要性を感じ、アンケートを行い、「頸損解体新書2020」の発刊に至りました。

多くの方々に調査協力していただき、研究者、頸損当事者が手を取り合い、多くの時間を使い、意見を出し合いながら作成しました。今回の調査では、前回の調査を行ってきた「地域格差」「高齢障害者」「外出」「就労」「福祉用具」「住環境」「健康」「制度」「重度頸損者」に加えて新たに「女性頸損」、そして「ライフスタイル（家族、結婚、性）」について、また多発する「災害」についても調査いたしました。過去の頸損解体新書と比較し、現在まだ残された課題を掘り出し、その課題を解消するために活用します。

頸髄損傷となり、日々の中でさまざまな状態があり、また地域や環境によっても、皆それぞれ違いがあると思います。初めは、自分がどのような状態かを把握しようとします。それから、自分に近い状態の人はどうしているのか、何をしているのかを知りたいと思うのではないでしょうか。そして自分には何ができるのか、何がしたいのか、そのためにはどう行動すべきか考えていくのではないでしょうか。その時にこの「頸損解体新書2020」が、皆様のお力になれば万感の思いです。私たち頸髄損傷者が誰一人社会から取り残されず、少しでも楽しく豊かな日々の生活が送れるよう、頸髄損傷者連絡会は活動を続けていきたいと思います。

本著製作にあたり、三菱財団をはじめ、日本リハビリテーション工学協会の皆様や多くの方々、ご支援ご協力を得て完成することができました。心より感謝いたします。この本は頸髄損傷者だけではなく、その家族、友人、頸髄損傷者に関わる職場、支援者の方々にとって、頸髄損傷を理解するためにもあります。この本を読んだ頸髄損傷者が、〈自分らしくあるために〉を考え、この先の人生を豊かにするために、少しでもお役に立てることを願います。

1977.12.3 第3種郵便物認可
(発行日)2021.8.15 SSKP 通巻第7717号

全国頸損連絡会と連携して総会を開催することができた京都府大会。全国の頸損者の生活実態調査を実施し、その調査をまとめた「頸損解体新書2020」の説明から講演会が始まった。埋もれた課題、直面する問題等を浮き彫りにした。全脊連も、今後これらに習って、あらためて重度の障害者が地域で暮らしていくための方策を構築するために、脊損者の視点から実態調査を実施し、情報発信をしたいものです。

「頸損解体新書2020」完成報告について

趣旨説明
・調査を通じて把握できた情報を広く頸損者や関係機関に提供し、問題点を提起する。
・同じ障害を持つ者が全国どの地域に暮らそうとも同じ生活が保障される。
・得られた情報を共有しセルフヘルプ活動に活用して問題点の解決に役立てる。

報告者　全国頸髄損傷者連絡会
宮野秀樹事務局長
鈴木太事務局長補佐
島本義信、関根彩香

概要と調査方法について

宮野秀樹事務局長

概要と調査方法を説明いたします。

調査の目的ですが、現在の頸髄損傷者の自立生活、社会参加の実情の把握が一つの目的になっています。

自立生活と社会参加を促進する上で必要な社会的支援のあり方の検討ということも目的となっております。

そして過去２回の調査です。30年前、10年前との比較分析から時代の変化を見るということにも重点を置きました。

調査の概要ですが「頸髄損傷者の自立生活と社会生活に関する実態調査2020」としてアンケート調査票を作成し、それを対象者にアンケート調査票へ回答を記入してもらうということでやっております。

調査方法ですが、アンケート調査票を対象者に郵送して回答を返送してもらうという方法です。そしてもう一つが、ホームページ上にアンケートフォームを設置し回答してもらう方法を採りました。また、ホームページ上から調査票をダウンロードして自ら回答して返送してもらう、この方法も採りました。

調査期間ですが、令和２年２月21日から、令和２年４月５日まで行っております。郵送した数は3055通、発送しました。なお宛先不明による返信及び受け取り拒否等は10件ほどありました。

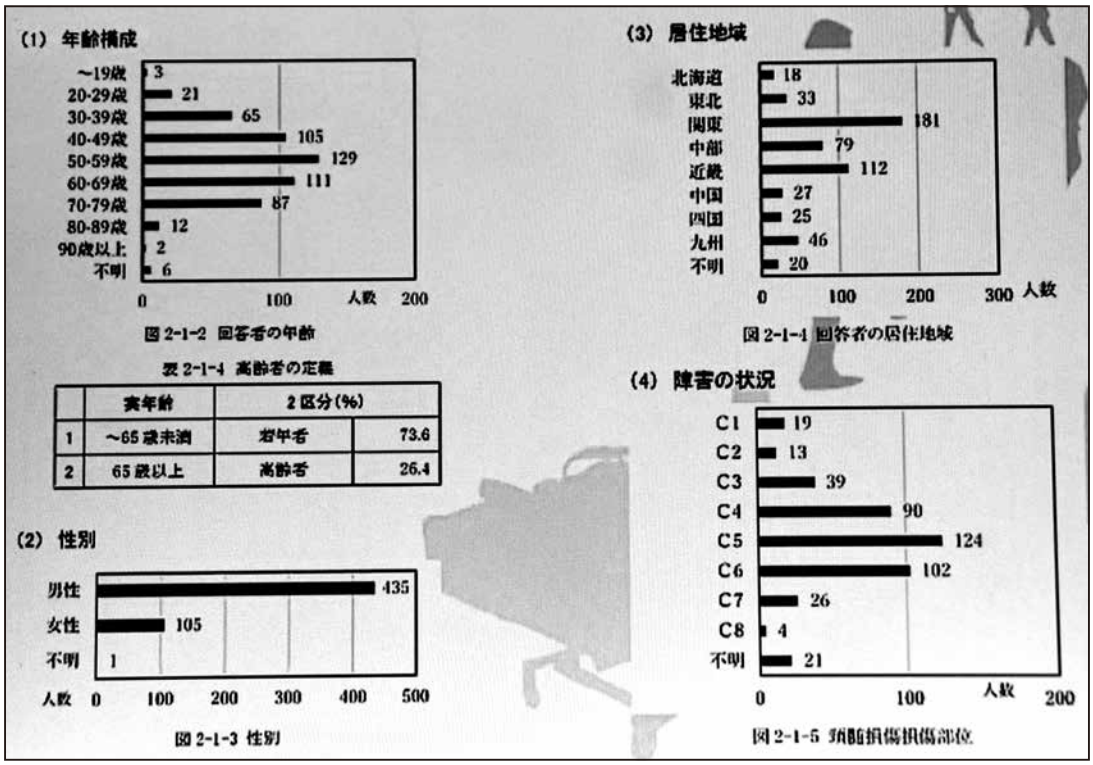
内訳ですが、直接発送数は2670通、間接発送というのが385通です。日本せきずい基金にも多くのご協力をいただきました。また脊損連合会の28支部の方にもご協力いただきました。

回答者数になりますが、在宅・在宅以外と分けていますが、WEBアンケートでは計250通の回答がありました。また紙ベースのアンケートでは312通の回答があって、計562の回答を得ております。

回答者の基本属性です。

年齢構成は次表にも載っていますが、40代、50代、60代が圧倒的に多いです。70代も多いです。わりと年配者の方が多いということが、今回の回答の基本属性です。

その中でも高齢者の定義ということで分けたら、65歳未満を若年者、65歳以上を高齢者とするならば、若年者が73.6％、高齢者は26.4％という結果になっております。



性別ですが、やはりこれも男性圧倒的に多くて435人、女性が105名。男性よりか女性のほうが少なくなっています。

居住地域ですが、いわゆる都市部、関東、中部、近畿、このあたりの回答が多く得られております。

障害状況はＣ４、Ｃ５、Ｃ６、このあたりの頸髄損傷者の回答が多くなっております。これが一応基本属性の結果となっております。

冊子の紹介

鈴木太事務局長補佐

冊子の紹介をさせていただきたいと思います。左図のような形で、表紙が完成されています。カラーで使えるのは表紙と裏表紙ということでしたので、そこへ写真を配置して、頸髄損傷者の活動が垣間見られるような冊子の構成といたしました。

裏表紙も写真を配置していまして、そこからも頸髄損傷者の活動や旅行の風景、行った先の写真とか活動で使っている写真が表示されるようになっている構成としております。

全体の表示になりますけれども、インパクトがある写真を配置して、皆さんに見てもらいやすいような写真の構成としております。これらの写真なのですけれども、今回、フォトコンテストという形で、頸髄損傷者連絡会の会員の皆様に写真を提供していただき、そこでコンテストをさせていただき、写真を配置することにしました。

ここから内容の紹介をしていきたいと思っております。

全体が207ページの冊子になっています。第１部から第４部までという構成になっています。

その第１部は、－みんなちがって、みんないい－の表題のもと、事例紹介となっています。頸髄損傷者の当事者の方々から事例報告を集めて､それを紹介する形になっています。さまざまなカテゴリーの記事を準備していただいたのですけれども、その中で〈災害〉と

第 1−1 章

希望をカタチに、次へつなぐ

【事例紹介-1】災害に備える

東日本大震災を振り返って　相山　敏子

◆ はじめに

出会いは宝であり、人はかけがえのない財産であると思う。振り返ると、一人一人の繋がりと海きに気付かされる。

私は地元である福島県南、中通り、白河市に隣接する西郷村在住で、17 年前の支援費制度を機に自立生活をスタート。自分の介助スタッフを作り育てながら、シフト作り・調整等に追われながら、自分の人生を生きている。受傷歴は長く、中学校教諭として意気揚々と社会の第一歩を踏み出して程なく通勤途中に自損事故を起こし、頸髄を損傷してから 38 年になる(C-4.5)。辛うじて討を曲げられるようになったのは退院してから数年後のことだが、それだけでも補助具を着けてなんとか本をめくることもキーボードを打つこともできるようになった。ただ、友人が根気強く勧めてくれなかったらパソコンとの出会いも無かっただろうし、恩人たちとの出会いも重度の障害を持って生き生きと自立している先人たちとの出会いも県内の仲間たちとの出会いも無かったに違いない。そして、その恩人が導いてくれたこの「自薦登録ヘルパー体制」でなければ私の自立は不可能であり、今の私は存在しない。

今現在、コロナ禍の中で、令和２年７月豪雨災害と呼ばれる九州全土が押し流されてしまうほどの大雨被害の状況が映像とともに連日報道されている。この瞬間、どれほど多くの命が土砂に埋もれ、濁流に飲み込まれているのか。どれほど多くの仲間たちが恐怖の中で死を覚悟しているのか。締め付けられるような胸の痛みと同時に 9 年前の未曾有の大震災が蘇ってくる。

図1 車椅子の写真

「東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)」

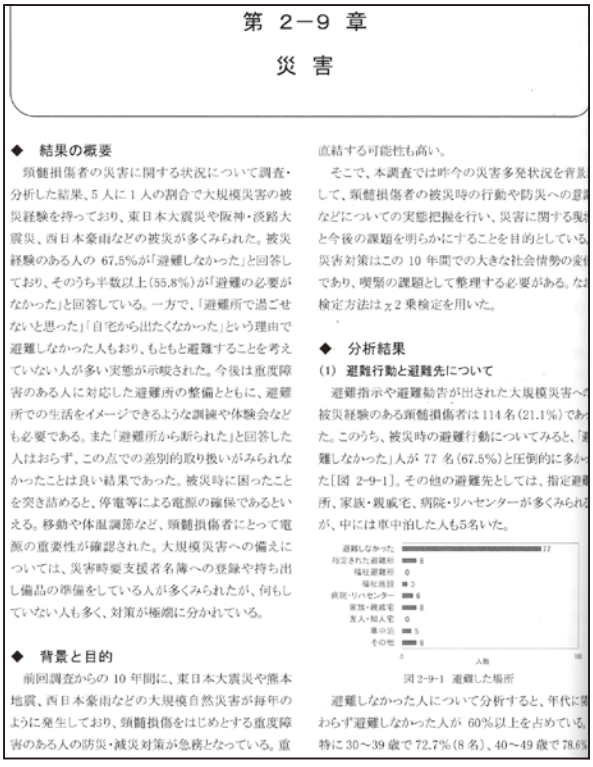
2011 年３月 11 日 14 時 46 分頃、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0 の地震が発生し、大津波、火災等により、12 都道県で約１万 8000 人の死者・行方不明者が出た。白河市震度6強。土砂崩れにて 14 名死亡、近くの工場で火災、家屋倒壊多数、あちこちで道路陥没亀裂、水道管破裂。福島第一原発におけるメルトダウン発生(当時はどういうことなのか全く理解できずにいた。離れているせいか、放射能への恐怖もなかった)。

いうカテゴリーから始まるようになっています。

全体の状況ですけれども、災害を経験、東日本大震災を経験された方の記事からスタートするようになっています。

〈災害に備える〉東日本大震災を振り返って、と題して始まっています。その他にも〈人工呼吸器と共に〉〈結婚する〉〈自分らしく〉と続きます。

その他にも〈子育てをする〉〈恋愛〉〈仲間と〉〈働く〉〈東日本大震災の経験を次の世代へ〉という構成となっております。



第 2−9 章

災 害

◆ 結果の概要

頸髄損傷者の災害に関する状況について調査・分析した結果、5 人に 1 人の割合で大規模災害の被災経験を持っており、東日本大震災や阪神・淡路大震災、西日本豪雨などの被災が多くみられた。被災経験のある人の 67.5%が「避難しなかった」と回答しており、そのうち半数以上(55.8%)が「避難の必要がなかった」と回答している。一方で、「避難所で過ごせないと思った」「自宅から出たくなかった」という理由で避難しなかった人もおり、もともと避難することを考えていない人が多い実態が示唆された。今後は重度障害のある人に対応した避難所の整備とともに、避難所での生活をイメージできるような訓練や体験会なども必要である。また「避難所から断られた」と回答した人はおらず、この点での差別的取り扱いがみられなかったことは良い結果であった。被災時に困ったことを突き詰めると、停電等による電源の確保であるといえる。移動や体温調節など、頸髄損傷者にとって電源の重要性が確認された。大規模災害への備えについては、災害時要支援者名簿への登録や持ち出し備品の準備をしている人が多くみられたが、何もしていない人も多く、対策が極端に分かれている。

◆ 背景と目的

前回調査からの 10 年間に、東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨などの大規模自然災害が毎年のように発生しており、頸髄損傷をはじめとする重度障害のある人の防災・減災対策が急務となっている。重直結する可能性も高い。

そこで、本調査では昨今の災害多発状況を背景として、頸髄損傷者の被災時の行動や防災への意識などについての実態把握を行い、災害に関する現状と今後の課題を明らかにすることを目的としている。災害対策はこの 10 年間での大きな社会情勢の変化であり、喫緊の課題として整理する必要がある。なお検定方法は χ2 乗検定を用いた。

◆ 分析結果

(1) 避難行動と避難先について

避難指示や避難勧告が出された大規模災害での被災経験のある頸髄損傷者は 114 名(21.1%)であった。このうち、被災時の避難行動についてみると、「避難しなかった」人が 77 名(67.5%)と圧倒的に多かった[図 2-9-1]。その他の避難先としては、指定避難所、家族・親戚宅、病院・リハセンターが多くみられるが、中には車中泊した人も5名いた。

図 2-9-1 避難した場所

避難しなかった人について分析すると、年代に関わらず避難しなかった人が 60%以上を占めている。特に 30〜39 歳で 72.7%(8 名)、40〜49 歳で 78.6%

次が第２部となり、研究者と共に分析をした結果の報告になっています。〈頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査報告〉ということで、ここが調査報告のメインとなっており、それについて分析を行いました。

ここでは分析結果と報告をまとめております。左図下のような感じで報告書の形となっております。

ここは災害のパートになるのですけれども、この部分は、前回なかった分野になっています。災害が最近多発しておりますので、このように今回分析を行っております。

あと、この調査は、30年前と10年前にも同じような形で調査してきているのです。頸髄損傷者のライフスタイルそのものが変化しているであろうということで、ライフスタイルについても分析結果をまとめています。

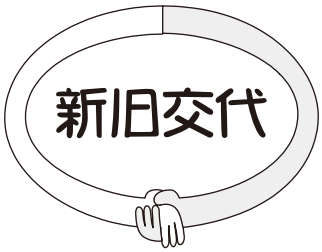
第３部になります。ここの部分は〈私たちが目指す頸髄損傷者の自立生活と社会参加の促進に向けた提言〉ということで記しています。後半で、報告させていただきます。

最後の第４部となります。

このようにまとめた頸損解体新書なのですけれども、これは、集めたデータは「頸損解体新書2020　中間報告書」という形でデータは公開されています。今、表示されているホームページに載っていますので、アドレスを入れていただくか「頸損解体新書2020」で検索していただくと出てくると思いますので、よかったら目を通していただけたらと思います。以上が私からの冊子の紹介になります。

（続く）

新任理事・よろしく



仲根　建作（沖縄県支部）

平成26年度、27年度の２年間九州ブロック代表で理事を拝命し、今度で２回目となります。

理事参画の理由は「ピアサポート」の推進です。今年度から福祉サービス制度の施策化が開始されました。しかしながら、ヘルスケア分野の支援体系というよりは精神ケア分野からのアクションによる施策化になっています。

全脊連の１丁目１番地の活動として今日まで諸先輩が尽力してきたピアサポート活動を、“相談援助の専門分野の仕事”として制度仕組みに反映させたいという思いです。

早速、今年度事業計画に位置付けられた「ピアサポート養成研修」を企画立案しますので、多くの会員が受講されることを希望します。

また、コロナ禍によって国はデジタル化が加速されますので、会員、各支部間のネットワーク化も併せて取り組みが必要で、私自身遠隔地@沖縄からの参加です。オンラインをどこまで活用できるかチャレンジです。皆様、よろしくお願いします。

露崎　耕平（千葉県支部）

本年度より本部理事を務めさせて頂く、千葉県支部　支部長の露崎耕平と申します。会員の皆様には日頃より本部運営にご理解とご協力を頂き、私達が活動できるのも皆様のお陰です。感謝申し上げます。

私がやりたい事、それはズバリ！全脊連の知名度を上げる事。先輩方の働きはとても素晴らしい功績です。社会において全脊連の役割はとても大きいと感じています。ですが現在全脊連は会員が減少しています。このままでは団体としての力も弱くなってしまいます。今まで先輩方が残してきた素晴らしい功績が今花を咲かせ実になりひと昔と比べると、とても生活しやすくなりました。この花を絶やす事なく大きな木にしていきたいのです。そのためにも会員減少に歯止めをかけ、今の時代に合った組織作りと会員増が急務ではないかと考えます。

新しい事にチャレンジしながら理事を務めさせて頂きます。まだ理事として未熟ではありますが何とぞよろしくお願い致します。

退任・ご苦労様でした

古谷　杉郎 氏（労働災害ＷＧ担当）

世話になりました。2014年から理事でお世話になり、最初に取り組んだのが、そもそも私が脊損連合会を知るきっかけとなった元会長の新田輝一さんの労災遺族補償請求でした。

障害補償年金受給者の再発時の取り扱いで新通達を出させ、22年ぶりに介護補償給付額の見直しが行われ、いま連合会は遺族補償の抜本見直しを求めています。

今後も労災相談への対応等続けていきますので、よろしくお願いいたします。

1977.12.3 第３種郵便物認可
（発行日）2021.8.15 SSKP 通巻第7717号

●投　稿

『褥瘡入院騒動記』

山形県支部　小林光雄

（その１）突然の入院宣告！

「入院だな！」それは突然の宣告！でした。

数日間39度前後の高熱が続いていましたが、喉が痛いわけでも、咳が出るわけでもなかったです。

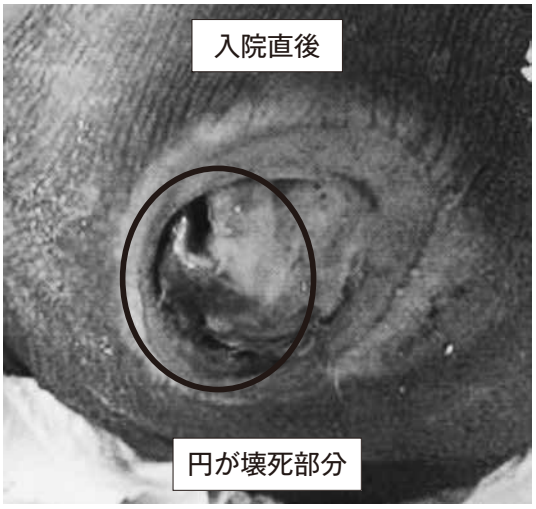
もちろん県外に行った訳でもなく、そんな人たち⁉との接触もないのでコロナの可能性は０（ゼロ）。

自分で手当てし、壊死部分があることも分かっていたので「褥瘡の悪化！」からくる熱であることは分かっていました。

木曜日が定期的に通っている病院の定期診察の日なので２～３日の我慢⁉（結果的にはその我慢が、より創傷部を悪化させたようです）。

診察当日、病院に行き熱を測る。このコロナ禍39度近くの熱はただ事ではありません。

作って間もない『コロナ疑い専用診察室』⁉での聞き取り調査と診察。もちろん今までの経緯を話し、コロナの疑いは晴れました。



主治医に少し壊死部分を切除してもらい、言われたのが「紹介状書くから、明日系列病院の皮膚科を受診するように！」

そして翌日（金曜日）、ＣＴ検査や一通りの診察をした後、主治医からの最初の一言。

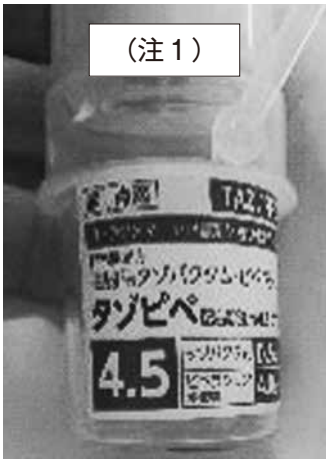
一瞬絶句してしまいました。

脊損会はもちろん、地区の事、身障協の事、参加しているスポーツクラブの事、ゲートボールの事等々やっていることが多すぎ、すぐ処理しなければならない事も多くあったからです。

「少なくとも明日ではだめですか」と主治医に頼んだのですが「じゃ～Ｎ病院を紹介しようか？」とまで言われれば入院を承諾するしかありませんでした。

数年前、「紹介しよう」と言われたＮ病院に入院した仲間（会員）が、何か月も治らず「小林さん何処かいい病院ないかなぁ～」と相談されたことがあり、そのころ創傷外来があり「骨まで見えたのがすっかり良くなった」というＴ病院を紹介し、治ったことがあったのです。

いまＴ病院はあるのですが、その当時の先生が東京で開業してから「褥瘡がなかなか治らなくなった」と言うことを知っていたので、Ｎ病院もＴ病院も選択肢にありませんでした。



妻に電話し、とりあえずの荷物と乗って来た車を家に戻すため、就活中で自宅に居た孫と一緒に来てもらいました。

その日は金曜日、そこから１日３回タゾピペ（注１）点滴の始まり。入院したのが３時頃だったので、その日は２回。

（注１：ペニシリン系抗菌薬。細菌の細胞壁合成を阻害し細菌に殺菌的に抗菌作用をあらわす薬）

翌日（土曜日）から１日１回患部の手当てと３回の点滴。

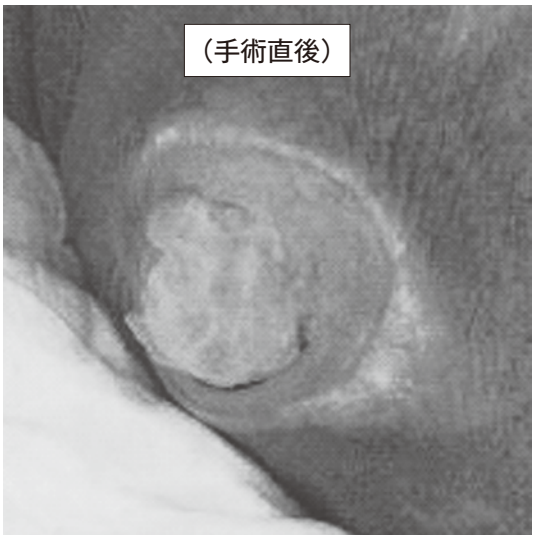
徐々に熱も下がり、３日目にはほぼ平熱まで戻りました。

その日（月曜日）に入れてもらったお風呂の、なんと気持ち良かったこと。

同じ日、大濱さんより連絡があり「患部に塗るのはユーパスタ（注２）が良いよ」と教えて頂きました。

家からノートＰＣを届けてもらい、スマホに接続し取りあえずインターネットは使えるようになりました。

ノートＰＣに必要なものが入っていなかったので、孫と連絡し合いデスクトップＰＣからＵＳＢにいろいろ移動してもらい届けてもらいました。



その事により、当面の作業⁉はベッドで出来るようになりました。

水曜日、残った壊死部分の切り取り手術。へそより下が完全麻痺なので麻酔の必要もなく主治医と話が出来たので「先生ユーパスタを使って頂けませんか」とお願いしたら「以前使ったことがあるので外来に残っているかも知れない、探してきて」と嬉しい一言。手術後の手当てはユーパスタを使って頂きました。

しかしその日の夕方、主治医が来て「ユーパスタに後発品がなく、最初に使ったスクロードパスタ（注３）は後発品である。成分はほとんど同じなので、当病院では後発品を使うことになって居る」と言われ、ユーパスタは幻に終わりました。

（注２：ユーパスタコーワ軟膏　1991年製造だが後発品なし　薬価１ｇ23.9円）

（注３：スクロードパスタ　1999年製造、後発品あり　薬価１ｇ9.6円　薬効薬理試験でユーパスタ同等品）

少し困ったことは熱を出す前自宅での便出しは１日半、若しくは２日に１回でしたが、点滴を始めて便が緩くなった事で24時間持たず便失禁している事でした。

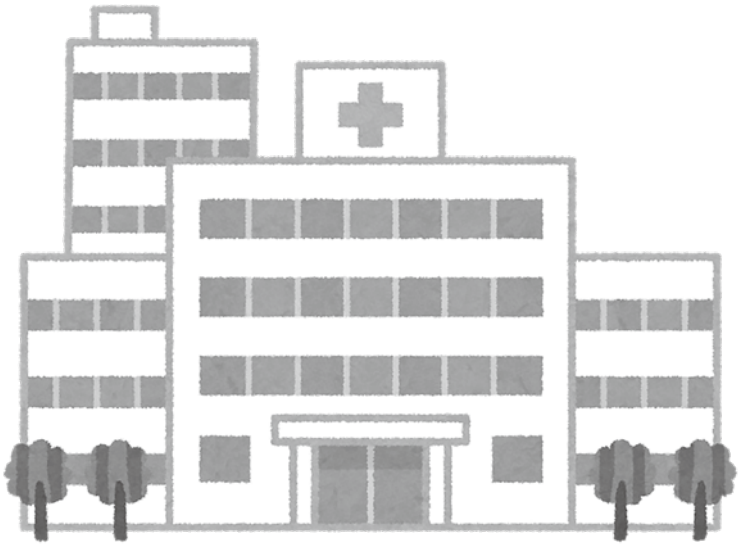
もちろんオムツをしていたので衣服をぬらすことはありませんでしたが、生活リズムが忙しく感じました。

原因は点滴の副作用。確かに副作用として「下痢」と書いてあったのです。

壊死部分を手術した翌日（木曜日）、回診で来た主治医に「明日か月曜日、家族と一緒に話がしたい」と突然言われました。

「手術し、滲出液も少ないし来週あたり退院⁉」と勝手に想像し、翌日面談することにしました。

（その２へ続く）



1977.12.3 第３種郵便物認可
（発行日）2021.8.15 SSKP 通巻第7717号

減GENSAI災

《減災意識をたかめる》

災害情報が大幅変更

「避難指示」で行動開始

リスクは事前確認を

梅雨や台風などがもたらす今年の出水期から、避難の判断に関わる情報が大幅に変更。これまで自治体が出してきた「避難勧告」は廃止され、「避難指示」に一本化された。一方、昨年も熊本県などに集中豪雨をもたらした「線状降水帯」について、発生したとの情報発表を気象庁が始める。被害を減らすには住民の理解が不可欠だ。主な変更点や課題を整理した。

災害時に市区町村が発令する避難情報が変わり、５月20日から運用が始まった。自身や家族の命を守るため、必ず覚えておきたいのは「避難指示が出たら、危険な場所にいる人は全員避難」という点だ。自宅周辺の災害リスクを事前に確認しておくのも重要となる。

避難情報の最も大きな変更点は、1961年に定めた避難勧告を廃止し、避難指示に一本化したことだ。４月下旬に成立した改正災害対策基本法に盛り込まれた。

勧告は、スムーズに移動できるよう時間的な余裕を持って発令するのが原則で、危険な場所にいる人はすぐに避難を始める必要があった。しかし、あまり知られていないため、差し迫った状況で出る避難指示まで待ってしまい、逃げ遅れる事例が後を絶たなかった。

一本化により、勧告と指示の違いを理解する必要はなくなった。市区町村は今後、これまで勧告を発令していたタイミングで指示を出す。

台風接近時などに市区町村や気象庁が出すさまざまな情報を５段階に分類し、住民が取るべき行動を分かりやすくしたのが「大雨・洪水警戒レベル」だ。法改正に伴い、これも改定された。

具体的には、上から２番目のレベル４に避難勧告と指示を併記していたのを改め、指示に一本化した。４は災害発生の恐れが高い状況。市区町村は「レベル４、避難指示です」などと呼び掛けるので、危険な場所にいる人は全員避難する。

レベル３の避難情報は「避難準備・高齢者等避難」に簡略化された。３は災害発生の恐れがある状況で、移動に時間がかかる高齢者や障害者らは、安全な場所への移動を開始する。

最高のレベル５は「災害発生情報」から「緊急安全確保」に変わった。災害がすでに発生しているか切迫している状況で、すぐに身の安全を確保する。市区町村が災害発生を覚知できるとは限らないため、発令されない場合もあることに注意が必要だ。このため遅くともレベル４で避難を始めなければならない。

いざというときに迷わないためには、平時の準備が大切だ。内閣府がホームページなどで公開している「避難行動判定フロー」を使えば、適切な避難のタイミングなどを知ることができる。

使い方は簡単で「災害発生の恐れがありハザードマップ（避難地図）で色が塗られた区域に自宅があるか」「避難に時間はかかるか」といった質問に「はい」「いいえ」で答えていくだけ。マップは自治体ホームページなどで見られる。例えば災害の恐れがある区域に家があり、身内に高齢者がいる人は、レベル３高齢者等避難が出た段階で避難が必要と分かる。

避難の考え方が変化していることも知っておいた方がいい。浸水被害に遭いやすい低層の木造住宅が中心だった昔に比べ、近年は鉄筋コンクリート造りなどの頑丈な高層住宅が増加。公民館や学校などに身を寄せる「立ち退き避難」だけでなく、あえて高層階にとどまる「屋内安全確保」も選択肢の一つとなった。

内閣府は、屋内安全確保の前提条件として「住宅の倒壊や流失の恐れが低い」「浸水しない高さに居室がある」「水が引くまでの食糧などを十分に備えている」の３点を挙げている。

迫る豪雨の危険速報

「線状降水帯」形成発表

気象庁　年間10～20事例想定

線状降水帯は豪雨災害の一因とされ、気象庁は、形成されたことを確認して速報する「顕著な大雨に関する気象情報」を発表する。発表対象は都道府県内の地方ごと。実際に発表された際は市民に求められる避難行動を５段階で表す大雨・洪水警戒レベルで４～５の状況とみられ、危険が迫っている。同庁は各地で発生する豪雨のうち年間10～20事例での発表を想定している。

線状降水帯は積乱雲が次々と発生し、風に流されながら線状に連なることで同じエリアに数時間にわたって強い雨をもたらす気象メカニズムだ。気象庁の定義では長さ約50～300㌔、幅約20～50㌔。形成には気象状況や地形、海上から流れ込む水蒸気の量が関係していると考えられている。

もともと専門用語だったが、西日本豪雨（2018年）などで形成されたことから注目され、一般にも徐々に浸透。気象庁は「市民に避難行動を促すキーワードになる」と考え、使用を決めた。

発表の決め手は、レーダーなどによる解析雨量だ。全国を５㌔四方で区切ったエリアごとに計算され、

①前３時間の積算降水量が100㍉以上のエリアが計500平方㌔以上
②３時間降水量の最大値が150㍉以上のエリアを含んでいる
③降水域全体の形が「線状」

―などの基準を設けた。

気象庁がホームページに地図形式で掲載する大雨警報（土砂災害）、洪水警報の「危険度分布」で「極めて危険」（濃い紫）のエリアを含むことも条件だ。

実際の発表では担当の気象台名や対象区域に続き「線状降水帯による非常に激しい雨が

1977.12.3 第３種郵便物認可
（発行日）2021.8.15 SSKP 通巻第7717号

同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています」などと記載する。

最初の発表から３時間後も線状降水帯が継続している時は続報を出し、その後も３時間おきに同じ対応をする。雨が落ち着いても再び基準に達する恐れがある時は「非常に激しい雨が継続しやすい」と警鐘を鳴らす。さらに危険度が下がっても地盤が緩んで災害リスクは高い。油断を生みかねない「解除」という言葉は使わず「雨は峠を越えたが、引き続き最大級の警戒を」と呼び掛ける。

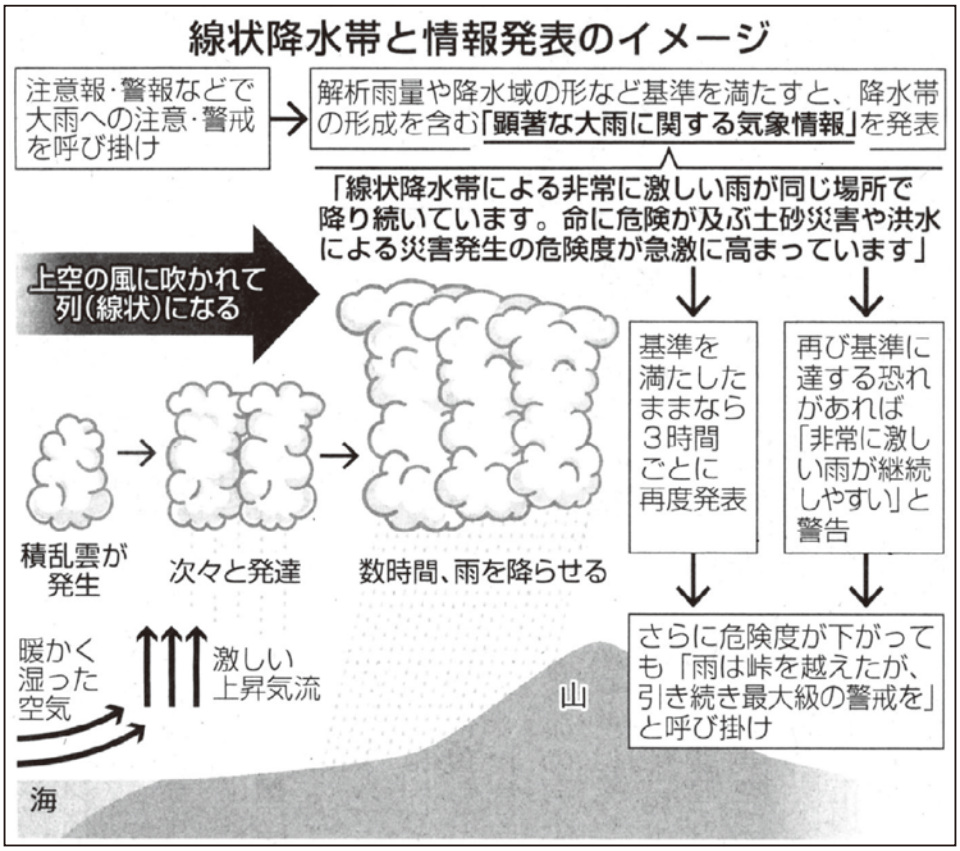
気象庁は、線状降水帯とメカニズムは異なるが、台風による大雨でも４基準を満たし、発表する場合があるとみている。

一方、気象庁が今回の取り組みを諮った有識者会議では「大雨の危険は警報で伝えられる。『線状降水帯形成の発表がないから、まだ大丈夫』といった誤解を生みかねないのではないか」などの慎重意見が相次いだ。

気象庁が西日本豪雨でシミュレーションしたところ、広島、愛媛両県などでは発表基準を満たしたが、多数の犠牲者を出し、８千棟以上の住宅が全半壊した岡山県は基準に達しなかったという。

たとえ発表基準を満たさない豪雨でも重大な被害が身に及ぶ恐れは十分あり得る。気象庁の担当者は「速報を待たず、警報や自治体が出す避難指示を早く把握し、直ちに身を守る決断、行動をしてほしい」と強調した。

◆**線状降水帯**　積乱雲が連続発生し、同じエリアに大量の雨が降り続けるメカニズムで災害リスクが急激に高まる。一つの積乱雲の持続時間は１時間前後だが、雲が次々と発生・発達し、風に流されながら線状に連なることで局地的豪雨をもたらす。昨年７月、九州を中心に大きな被害をもたらした豪雨などの際も多数形成されたことが判明している。形成には気象状況や地形、海上から流れ込む水蒸気の量などが関係しているとみられるが、現在の技術では発生時期や雨の継続時間などの予測が難しく、気象庁が技術開発を進めている。



災害時

避難ためらわないで

大震災教訓に感染予防を

新型コロナウイルス感染症の流行で、災害時の避難所での集団感染が懸念されている。ただ、避難所でインフルエンザやノロウイルスの集団感染があった東日本大震災の際にも、きちんと感染制御をすれば拡大を抑えられた。専門家は、十分な準備を急ぎつつ、準備が間に合わなくても災害発生時には避難と避難者受け入れをためらうべきではないと強調している。

▽柔軟な対応

避難所の問題では4月、内閣府や厚生労働省などから通知が出された。要点は ①可能な限り多くの避難所開設 ②ホテルや旅館の活用、親戚や友人宅への避難も検討 ③手洗いなど基本的対策 ④十分な換気、スペースの確保―などだ。ただ具体策は個々の災害現場、避難所の事情で大きく違ってくる。

桜井滋岩手医大教授（感染制御学）は「首都圏などでは多数の避難所確保も可能だろうが、どこでもできるとは限らず、柔軟な対応が求められる」と指摘する。

避難勧告レベルに応じて避難先を変える考えは一見合理的だが、勧告のタイミングを早め、指示内容を十分に伝えることで“結果として”在宅避難や分散避難になるのが現実的。住民に選択の余地がないのに、避難先を求めてさまようことがあってはならない。

桜井さんは「私見」と断りつつ、感染の有無で避難者を拒否するのは明らかに誤りだと話す。「無症状者にも避難所運営者にも、感染者が潜む可能性はある。それを忘れてはならない」

▽生きる教訓

避難所では半ば強制的に集団が形成され、感染リスクはいわば宿命的だ。災害が起きる前に準備するのが理想だが、それ以前でも、可能な限りの感染対策を積み重ね、相対的にリスクを下げる努力が求められるという。

桜井さんは東日本大震災の後、日本環境感染学会の検討委員長として、被災地での「感染制御マネージメントの手引き」を取りまとめた。手引きは、感染管理の注意点として「手指の清潔」「居住空間の清掃」「洗濯」「廃棄物の処理」を挙げた。「コロナ以後も変わらない。中でも手指の清潔は基本中の基本」と桜井さん。大震災の教訓は今も有効だ。

本来は居住を想定していない公民館や体育館などの避難所では「食事と洗濯を外注」「トイレごとにスタッフ配置」「寝床の間隔を1㍍以上、できれば仕切る」などを推奨する。仕切りはカーテンなどでは清掃が難しく、表面が拭き取れる素材が適切。周囲の人が体調不良に気付く「見守り機能」を損なわないよう、個室化させないのがいい。密閉すれば換気不良や熱中症も起きやすい。

避難所開設後は、こうした対策になお改善すべき点はないか、できるだけ早く感染制御チームの派遣を要請し、チェックするべきだとした。

▽孤立の危うさ

桜井さんは、コロナ以後の避難の在り方としてよくいわれる「車中泊」「自宅待機」に危うさを感じている。「絶対に駄目とまでは言えないが、感染リスクを下げるために、新たなリスクを増やす手段は取るべきではない。災害関連死が増える恐れも考えられる」。

例えば車中泊では、桜井さんは個人的な経験として車ごと被災したケースを知っている。車で避難すること自体の危険性や、狭い車内で体を動かさないことによるエコノミークラス症候群の恐れも指摘されている。

また、自宅待機では、誰がどこにいるのか、避難者の把握が難しくなり、被災者が孤立しかねない。「そもそも、自宅や車が安全な場所であること、そこが安全であり続けることを、誰が管理できるだろうか」と疑問を呈している。

1977.12.3 第3種郵便物認可
(発行日)2021.8.15 SSKP 通巻第7717号

霞が関発「防災女子の会」
ニーズ把握、交流拡大も

内閣府の防災部門を担当する女性職員有志が、女性のニーズに配慮した災害対応を研究するグループを立ち上げた。名付けて「防災女子の会」。既に防災担当相へ提言書を提出した。今後も同じ志を持つ女性のネットワークを広げていく考えだ。

昨年10月、赤沢亮正内閣府副大臣の呼び掛けで女性職員が集まり、懇談したのがきっかけ。「被災者支援などに女性の目線を反映させる必要がある」と盛り上がり、若手中心の７人で結成した。

週１～２回、業務の合間を縫って集まり、議論を重ねる。被災者の声を集めた資料の調査や、自治体などへのヒアリングもした。

手渡した提言書では、避難所のリーダーが男性ばかりだと生理用品など女性向けの物資要望を伝えにくいとして、災害対応の現場に女性が加わる重要性を指摘。避難先での性暴力や家庭内暴力を防ぐため、トイレや更衣室を安心して使える場所に設置することや、巡回警備の強化を訴えた。

メンバーで参事官補佐の芝千紘さん（31）は、国の防災担当職員に女性が少ないことも問題だと考える。「男女両方に配慮した施策を進めるためには、意志決定の場に男女がバランスよくいるべきだ」と話す。春の人事異動で女性の防災担当職員が増え、メンバーは13人に。地方自治体の女性職員や防災に関心がある女子学生、防災士の資格を持つ女性などとの連携も計画しており、芝さんは「防災に携わる交流の輪を広げたい」と意気込む。

意見徴集

あなたの考えを お寄せください！

障害　障がい　障碍　その他　ｅｔｃ.

「障害」の害という漢字表記を巡っては、いろいろと取り沙汰されてきた。審議会、政策委員会等でも検討はされているようだが、いまだに確定はされていない。

“碍”の字にしても常用漢字入りが見送られた。たかが文字と思えるが、表記を変えることで、意識を変革することにもなろう。常用漢字化しないと法律用語にもならないようだ。

障害当事者からの意見をお聞かせください。
ぜひ、全脊連事務局へお寄せください。

投　稿

学校内のバリアフリー化

てるてる坊主（祐成）
東京都支部

車いす利用者（児）が、あなたの学校に通う事になったら、その人がすべての活動に参加出来る様に、何をかえなくてはならないでしょう。校舎の中をどの様に移動し、トイレに行き、運動場（校庭）に出るのでしょうか。取り残される者・児を一人も出さないために、どこをどの様に変えるか、私たち・あなた達で考えましょう。

学校の改修や新しい校舎には、車いすや障害を持つ児童が動きまわりやすいように、１階建てで階段がなく、床も平らで凹凸がない事が重要です。身体障害者が利用できる、多目的トイレがあり、中には、静かなスペースや特別な運動をするためのスペースを取られている事もあります。

学校生活のすべての勉強や活動に参加する事が出来ます。少しばかり手を加えなければならない事もあります。例として、車いすがピッタリはいる様に机の高さを変える事です。

車いすの生徒が学校に来ることを考えていない時期がありました。開校100年など古い学校には、特に考えていないと思ます。階段がたくさんあります、少し手を入れるだけで、車いす利用の生徒が通えるようになります。何段かの少ない階段ならば、スロープ付ければ良い、１階部分に教室を移動させたり、エレベーターを取り付けたりしている学校も多くなって来ています。

毎日の学校生活の中で、ひとり残らず全員がすべての活動に参加出来るようにする事は、大変なことでは、ありません。これまでに行った、課外活動（遠足・運動会）など、皆さんで計画を立てれば良いのです。

車いすに乗っている人は、一日中じっと座って、誰かが来てくれるのを待っていると思っていませんか。車いすを利用して、偉業を残された人がいます。

画家や音楽家・政治家・物理学者など多くいます。

政治家ですと、アメリカ大統領、フランクリン・D・ルーズベルト、物理学者スティーブン・ホーキングです。どの様な事を成し遂げたかは、次の機会に続きます。

1977.12.3 第3種郵便物認可
(発行日)2021.8.15 SSKP 通巻第7717号

第5回『世界は開いているから仕方がない』村山　哲也

障害の度合いに関わらず、「障害者世界に生きる仲間たち」という感覚。

怪我をして、入院中、私は見舞客に「幸い手と口は動くから」って口にしていました。足はダメになったけれど、手と口が動くからラッキーって。

でも、障害のことを勉強しているうちに、「手と口は動くからラッキー」という言い方は、かなり迂闊な物言いだなぁと思うようになったのです。

私の背骨が胸椎６番で折れたのは、単なる偶然。もっと上､胸椎の１､２番とか､頚椎で折れていたら、手も動かなかったかもしれません。でも、手が動かなかったらどうした？絶望して「死んだほうがまし」って思うのか。

事故では、同乗者に亡くなった方がひとりいました。でも私は死ななかった。それだけで幸運、あのとき死んでいたら、もうみんなには会えなかった。

ことさら、口が動くとか、手が動くとか、そんなことは関係なく、生きているだけでラッキー。だから､「幸い手と口は動く」という言い方は、もしかしたら手も動かなかった、手動車いすも使えなかったかもしれない自分に対して、失礼みたいな気持ちになっていったのです。

境界は「生と死」の間には歴然とある。それで十分。障害者の中に境界をことさら引くこともない。

そう考え始めてからは､「手と口が動くから」という言い方はしたくなくなりました。手も口も動かない人と、もっとつながりたいと思いました。同じ、障害者の大きさに関わらず、同じ仲間さ、って思ったのです。

病院のベッドの上で読んだ本の中には「青い芝の会」という脳性麻痺の人たちのグループがあって、1970年代以降、障害者の生きる権利、について強く社会に問いかけていたことを知りました。

今、私が自由にバスに乗ったり、電車を使ったりできるのは、そういう先人たちの努力によって得られた果実のおかげなんだ。脊髄損傷だろうと、脳性麻痺だろうと、同じ仲間だ、って思いました。

『星子が居る－言葉なく語りかける重複障害の娘との20年』（世織書房1998）を読んだのも、病院のベッドでした。最首悟さんが、重度の障害を抱える娘さん（星子さん）のことを書かれたものです。星子さんは、ダウン症で、加えていくつかの重複障害を持ち、言葉を語ることもありません。一日の多くの時間を、ヘッドホンで音楽を横になって聴きながら過ごしている。

音楽の好みはある。気に入れば何度でも繰り返して聞いている。母親と父親もちゃんと区別している。機嫌がいいときもあれば、悪いときもある。障害者の学級に通えば、楽しそうであったりもする。星子さんは、個性があり、彼女なりに世界を認知している。

父親の悟さんにとって、星子さんの存在は、謎でもあるし、でも確実に愛情の対象でもある。星子さんは多くの思索を悟さんにもたらし、そして悟さんが書いた本を通じて、私も星子さんから多くを学ぶ。

あぁ、星子さんも仲間だ、つながっている、と私は思いました。もちろん、星子さんと私は語り合うことはできない。でも、障害を得る前、健常者としてもし私がこの『星子が居る』を読んだとしても､「星子さんとぼくは同じだ」という感覚は得られなかっただろうと思います。障害を得たことで、同じ障害者世界の人として、星子さんと私はつながったのです。

障害を持つことで開いた新しい世界の扉が、確かにあったのです。

1991～92年に理数科教師として働いていた、ケニア西部にあるクウィセロ中等学校にて。
未来を見つめるような生徒たちの瞳が、私を鍛えてくれたのでした。（本文とは関係はありません）

連　載

絵本にかける想い

渋谷　真子

エッセイ本を出版する前から私には「絵本を作りたい」という強い想いがありました。なぜ？絵本をつくりたいと思っていたかというと、自分の甥っ子や姪っ子、そして友達の子供は私が歩いていた時を知っています。ですが、それから車いすの姿を見たとしても、戸惑いはありながら接してくれる態度は一緒でした。それを感じた時に「子どもの頃から知る・触れる」の重要性を改めて気付かされました。子ども達に気軽に触れてもらえる物。それが絵本ではないかと思い、絵本を作りたいと思うようになったのです。

しかし、絵本を作ったこともなく、絵本を多く読んできた記憶もなかった私はどんな文章にしたらいいのか。どんな絵にしたらいいのか。模索する日々でした。絵が得意ではないため、絵を描いてくれる人を探すのも大変でした。そんなある時に出会ったのが、今回絵を担当してくれた“いずみげんたろう”です。

彼は大学時代に精神疾患で入院を経験し、今はその時の様子や克服した経緯などをセミナーや学校でお話をしていました。障がいは違えど、

「伝えることで人を支えていく」という想いは同じだと思い、お願いをしました。

また、車いすは日本だけでなく全世界共通だと思い、英文もつけることにしました。英文に翻訳してくれた“秋山真帆”も約３年前に交通事故で頸髄損傷になった方です。

２人の力を借り、たくさんの打ち合わせと修正を重ねた１年。やっと６月に製本することが出来ました。

今回絵本を印刷するにあたって、クラウドファンディングを活用しました。子ども達に届ける一歩として地元庄内地域の保育園、小学校、中学校約200施設に寄贈するための金額35万円を目標としました。２ヶ月募集した結果約90万円の資金が集まり、よりクオリティが高い本を300部印刷することが出来ました。今後は本を販売し、売上金を元に学校への寄贈分を印刷させて頂きたいと思っています。良ければサイトから購入して頂き多くの子ども達に届くお力を貸して頂けたら嬉しいです。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

絵本の販売ページにはＱＲコードを読み込むと飛ぶようになっています。

1977.12.3 第3種郵便物認可
(発行日)2021.8.15 SSKP 通巻第7717号

万華鏡　27　ＩＯＣの実態

千葉県支部　出口　臥龍

たしか中学の教科書だった。近代オリンピック中興の祖として、クーベルタン男爵の話が載っていた。世界平和のためのスポーツの祭典という美辞麗句には甘い響きがあった。オリンピック憲章には「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」という文言があった。気にもかけなかったが、後年、自分が障害者になって、ムカッ腹が立った。パラリンピックは、見返り措置だったのだろう◆ＩＯＣは、国際友好を第一義とした慈善団体だと思っていた。「モスクワ五輪ボイコット」に見られる政争の具や、獲得メダル数による国威発揚などが目立ち始め、あれれっ、プロレスや格闘技の興行団体と変わりないじゃん、と認識が変わった。何より驚いたのは一兆円を超える放映権収入だ。ま、四年に一度の開催だから、世界中に存在する何万人もの傘下団体職員に、四年間、オマンマ食わせなきゃならないのは分かる◆いまやＩＯＣは、国家と同等の権力を持つ圧力団体になった。ゼニはがっぽり入った。「なにキャンセルしたいだとっ。立候補したのはオメエラだろ。落とし前つけろ」と強面に転じた。いま世界ではコロナと人類が生存をかけて戦っている。そのさなかでのスポーツの祭典？　何か大きな勘違いをしているのではないか。

災害支援金への募金のお願い

近年、多様な自然災害が全国各地で多発しています。そのような事案に遭遇した全脊連会員へ生活支援等に即応すべく支援金の存在は心強いものです。その準備のために平時から募金活動を継続したいと思います。厳正に別会計として管理し公開してまいります。皆様からのご協力を心よりお願い申し上げます。

大規模災害発生時には、従来からの特定募金を実施したいと思います。

日頃より、防災意識の向上に心がけましょう。

〔記〕

【お振込先】

郵便振替は……００１１０－２－１７００７６

加入者名……公益社団法人　全国脊髄損傷者連合会　宛へ

※　通信欄に「災害支援金」とご記載ください。

組織部報告8月

●新入会員

埼玉県支部 角田勇志
千葉県支部 髙野陽介
千葉県支部 熊谷洋次
中部支部 池田憲一
沖縄県支部 三代達也

●死亡退会

謹んでお悔やみ申し上げます

沖縄県支部 前原文子 様
岩手県支部 新渡戸光吉 様
宮城県支部 佐藤義徳 様
大阪府支部 松下春雄 様
福岡県支部 岩崎庸雄 様
鹿児島県支部 徳久一彦 様

＜編集後記＞

東日本大震災の後、バリアフリーとかユニバーサルデザイン、あるいは災害時における障がい者の避難に関する勉強会、講演会等に参加するために、北海道から九州まで全国各地に出掛ける機会が増えた。同時に、フェイスブックには各地で知り合った友人知人が増えてゆく。出掛けた先にはその地の旨いものが待っている。それが何よりの楽しみだ。インターネットで簡単にお取り寄せができる時代とは言え、やはりその地の旨いものは、その地に出掛けなければ食べることができない。

北海道と言えば何と言っても海の幸だ。函館・札幌・小樽・知床と各地を巡り、新鮮な寿司や海鮮丼を堪能したつもりだったが、ひとつ肝心なものを食べずにいたことを忘れていた。それはウニだ。ウニにも旬の時期があって、六月から八月の時期を逃すとお目にかかれないことが分かった。

この十年間、大きな喜びが巡ってきた。それは可愛い孫の愛理の誕生である。今年一年生になった孫への感謝とお祝いとご褒美として、去年から北海道旅行を計画していた。しかし、まさかコロナ禍がこんなにも長引くとは思ってもみなかった。この原稿を書いている二日後には、北海道のまん延防止等重点措置が解除されるが、予定していた出発日まで解除から十日もあるので、その間に箍（タガ）が緩んだ人たちが街に繰り出し、感染が広がるのではという心配がある。フェリーも宿も札幌ビール園もすべて予約済みだ。愛理ちゃん、来年に延期しようか。爺ちゃんは思案中なのである。

（谷）

原稿をお寄せください

各支部で発行する機関紙に掲載された研修会や行事の報告等をお寄せください。また、会員の皆様で、旅行記や意見、エッセイなどの原稿も、本部へお寄せください。役立つ情報を共有したいと思います。あわせて支部機関誌も本部にお送りください。参考にさせていただきます。

私小説、ご自分の研究報告、体験談など多彩な原稿をお寄せください。

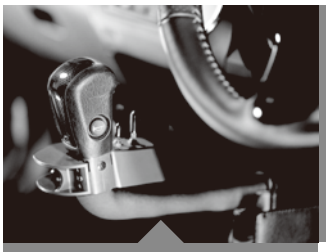
また、以前に利用したホテルなどの情報もお寄せください。

お待ちしています。

アイのある技術で、ユニバーサル社会に貢献します。

ニッシン自動車工業は2016年4月より、
”株式会社ミクニ ライフ＆オート”と社名を変更し、新たなスタートを切りました。

Happy car life

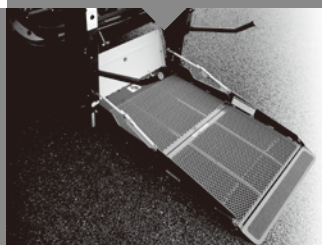


車いすを屋根上へ収納
車いす収納装置
オートボックス

車いすに乗ったまま
スムーズ乗降
リモコン式
乗降用リフト

手でアクセル＆ブレーキ
手動運転装置
APドライブ

車いすの積み降ろしを
サポート
車いす収納装置
ウィンチェア



福祉車両総合メーカー

MIKUNI life & auto
Mikuni × Nissin automotive industry

株式会社 ミクニ ライフ＆オート
〒349-1145 埼玉県加須市間口456-1
TEL.0480-72-7221
FAX.0480-72-7223
http://www.nissin-apd.co.jp/

昭和五十二年十二月三日第三種郵便物認可　毎月十八回一・二・三・五・六・七・の日発行
令和三年八月十五日発行　SSKP　通巻第7717号

編集人　東京都目黒区緑が丘2-15-14
発行人　（公社）全国脊髄損傷者連合会
東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷102号室
障害者団体定期刊行物協会

頒価五〇〇円
印刷・製本　コロニー印刷